

〈小学校特別活動〉

# 他者と協働しながら主体的に課題に向かう児童の育成

～「主体的・対話的で深い学び」を重視した学級活動を通して～

うるま市立勝連小学校教諭 新城 征史

## I テーマ設定の理由

社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となってきた。そうした変化は、どのような職業や人生を選択するかにかかわらず、すべての児童の生き方に影響するものとなっている。

これからの複雑で変化の激しい社会において、子ども達が様々な変化に主体的に向き合い、他者と協働して解決していく力や、将来、社会的・職業的に自立して生きるための「生きる力」を育成することが、一層求められている。

今回の学習指導要領改訂では、「学級活動における児童の自発的、自治的な活動を中心として学級経営の充実を図ること」が示され、特別活動が学級経営において重要な役割を担っていることがわかる。学校は人と人が関わり合う一つの社会であり、学級は、児童にとって、学習や生活など学校生活の基盤となるものである。特別活動は、集団活動や体験的な活動を通して、多様な他者と人間関係を築き、協働して学級や学校文化の創造に参画する教育活動であり、人間関係形成や社会参画に資する力を目指すものである。また、その活動を通して自分自身を他者と共に尊重し、夢や希望をもって生きる自己実現の力を育むことが期待されている。

特別活動における「主体的な学び」の実現とは、学級や学校における集団活動を通して生活上の諸問題を自分たちで見いだしたり、解決できるようにしたりすること、「対話的な学び」の実現とは、多様な他者との話し合いや集団活動を通して、自己の考え方を協働的に広げて深めていくこと、「深い学び」の実現とは、課題の設定から振り返りまでの一連の実践の過程で、各教科等の特質に応じた見方・考え方を総合的に働かせ、各教科等で学んだ知識・技能などを、集団及び自己の問題の解決のために活用していくことである。

これらは、現在や将来の社会生活に生かせる学びであり、特別活動において育成する資質・能力は社会生活での汎用的な「生きる力」となると考える。

本学級の児童の実態をみると、明るく素直で、困っている友達に声を掛けてあげるなど皆で支え合おうとする様子がみられる。教師の指導に対しても素直に耳を傾け、与えられた課題は粘り強く取り組むことができる。一方で、学習意欲が低く学ぶ姿勢が受け身であるため、確かな学力の定着に繋がっていない。また、学校の決まりやマナーを守れない児童、自分の思いを押し通そうとするあまり他者と口論になったりする児童もいる。教師の見ていないところではつついっけしてしまう児童、教師の指示なしでは自分が今何をすべきかが分からずに活動できない児童もおり自主性や自立心の弱さが見られる。

これまでの私自身の実践を振り返ると、学級活動における人間関係・集団作りに力を入れて学級経営をしてきたが、どちらかというと教師主導の活動であった。学習指導においても児童同士の対話や交流の場が少なく、児童の自ら学ぼうとする意欲を育てることができていなかった。

そこで、話し合いによる言語活動の充実を意識しながら、児童主体の学級活動について研究を進めていきたいと考えた。学校・学級の諸問題について児童自身が課題を見だし、その解決に向けて考え、話し合い、合意形成や意思決定をし、実践し、活動を振り返りさらに新たな課題を発見していく一連の学習過程を通して、主体的に課題に取り組める児童の育成をめざして、本テーマを設定した。

## II 研究目標

「主体的・対話的で深い学び」を重視した学級活動を通して、集団の課題を自分の事として捉え、解決に向けて他者と協働しながら主体的に取り組める児童を育成する学級活動について研究する。

### Ⅲ 研究仮説

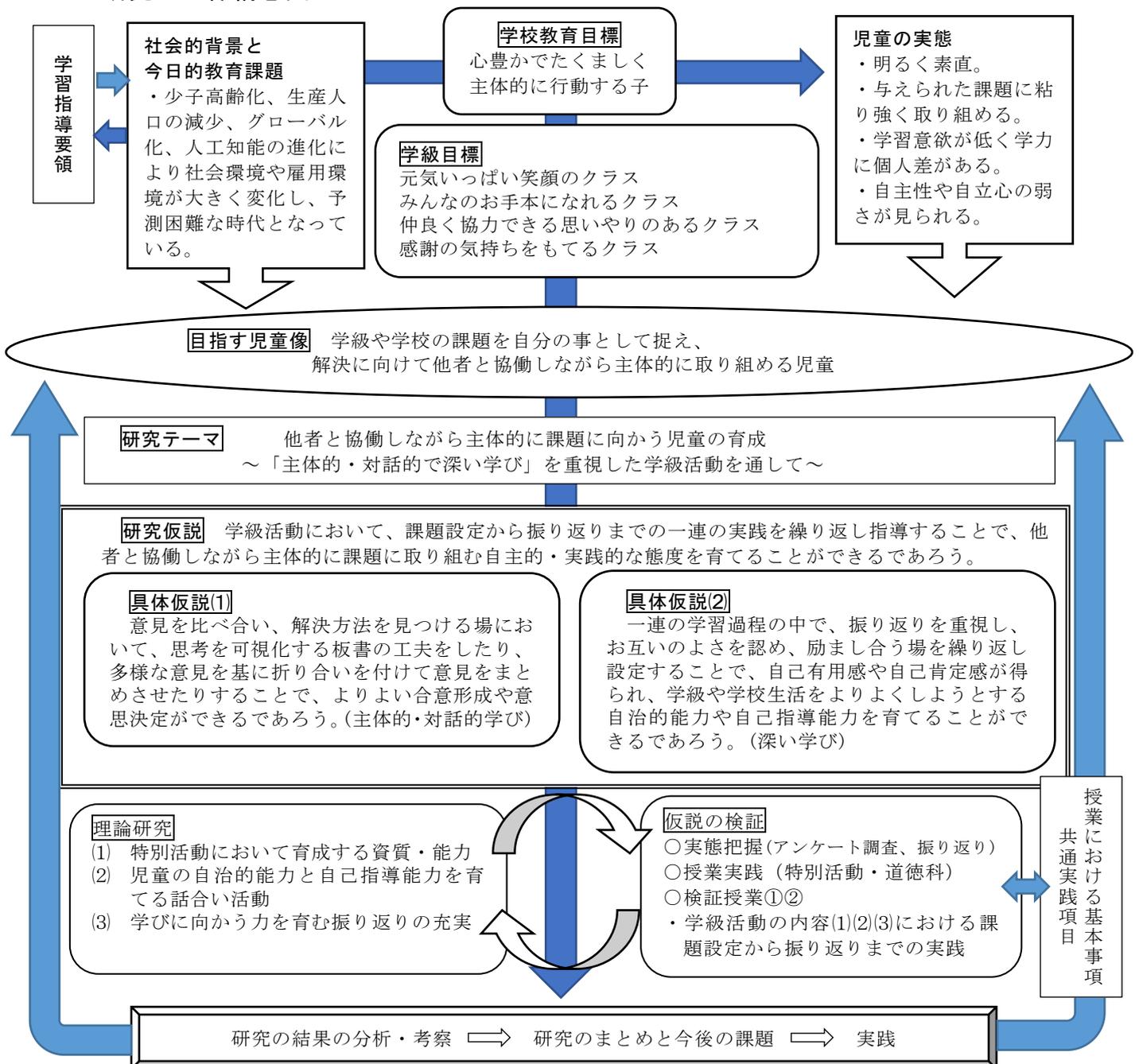
#### 1 基本仮説

学級活動において、課題設定から振り返りまでの一連の実践を繰り返し指導することで、他者と協働しながら主体的に課題に取り組む自主的・実践的な態度を育てることができるであろう。

#### 2 具体仮説

- (1) 意見を比べ合い、解決方法を見つける場において、思考を可視化する板書の工夫をしたり、多様な意見を基に折り合いを付けて意見をまとめさせたりすることで、よりよい合意形成や意思決定ができるであろう。
- (2) 一連の学習過程の中で、振り返りを重視し、お互いのよさを認め、励まし合う場を繰り返し設定することで、自己有用感や自己肯定感が得られ、学級や学校生活をよりよくしていこうとする自治的能力や自己指導能力を育てることができるであろう。

### Ⅳ 研究の全体構想図



## V 理論研究

### 1 特別活動において育成する資質・能力について

今回の学習指導要領改訂では、これまで特別活動が重視してきた「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つの視点に基づき、各活動や学校行事を通して育成を目指す資質・能力が明確化された。

特別活動における「人間関係形成」とは、人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成することである。児童は、様々な集団の中における「個と個」の関わりの中で互いの違いを認め合って、協議したり協働したりする中で、よりよい人間関係の築き方を体得していく。また、様々な集団の一員として違いを超えようとしたり、多様性を理解しようとしたりする過程で、「築きたい人間関係」を形成していくようになる。

「社会参画」とは、学校生活の中で自分が所属している様々な集団の活動に関わることを通して、将来所属する様々な集団や社会に対して主体的、積極的に関わり、様々な問題を解決しながらよりよいものにしていこうとする資質・能力を育てることである。学校は一つの小さな社会であると同時に、様々な集団から構成される。児童は「個の成長」の広がりとともに、自らが参画するコミュニティも広がっていく。また、コミュニティが広がることで、「人間関係形成」の場面も一層広がっていく。こうして児童は、所属する集団をよりよくしようと参画し、貢献していく活動を積み重ねながら、持続可能な社会の担い手としての意識を醸成し、「つくりたい社会」の実現へとつなげていく。

「自己実現」とは、将来なりたい自分に近づくため、今の自分にできることを考え実践しながら、よりよい自分づくりを目指すことができるようにすることである。そのためには、他者との関わりの中で自己理解を深めていくこと、自らの生き方を考え、自己のよさや可能性を生かしながら「個の成長」を重ねることが必要であると考えられる。

杉田洋(2017)は、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点と育成を目指す三つの資質・能力の関係を次の表のように整理している。

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
人間関係形成	多様な人と協働して活動する意義の理解やそのための方法	お互いの意見や考えの違いを尊重し、互いのよさや可能性を生かす関係をつくること	社会的集団における人間関係を、自主的、実践的によりよいものへと形成しようとする事
社会参画	自発的、自治的な集団活動の意義や活動を行う上で必要な合意形成するための方法	学級や学校の集団の生活の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ること	学級や学校の集団や活動に参画し、問題解決を主体的に解決することを通して、よりよい社会や生活を創造しようとする事
自己実現	自己実現に必要な自己理解を深め、意思決定するための方法	自己のよさや可能性を生かし、自己の在り方生き方を考え、設計するなどの意思決定ができること	現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、目標を決めて取り組み、自己の可能性を拓こうとする事

この表から、特別活動において育成を目指す資質・能力の中には3つの視点が反映されていることが分かる。

児童は、学校生活を通してその時々、「なりたい自分」に近づこうと努力する(自己実現)。同時に、多様な他者とよりよく関わろうとする(人間関係形成)。さらには、所属する集団の一員としての役割を果たそうとする(社会参画)。このように、三つの視点は密接に関連しており、明確に区別されるものではなく、特別活動の方法原理が「なすことによって学ぶ」であることから、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点は学習過程のそれぞれの場面で適切に発揮できるようにすることが大切である。

本研究では、「学級や学校の課題を自分事として捉え、他者と協働しながら主体的に課題に向かう児童」の育成を目指している。主体的に課題に向かう児童とは次のような児童と考える。

- ◎集団の課題を自分の事として捉えることができる児童
- ◎よりよい学級づくりのために自ら課題を見だし議題を提案できる児童
- ◎他者と協働しながら解決方法を考え、話し合い、実践できる児童
- ◎多様な意見を基に折り合いを付けてよりよい合意形成や意思決定ができる児童
- ◎集団決定したことや意思決定したことを粘り強く実践することができる児童
- ◎学級活動における一連の学習過程を通して、自治的能力や自己指導能力が身についた児童

以上の児童の育成を目指して、「主体的・対話的で深い学び」を重視した学級活動についての研究を行う。

## 2 「主体的・対話的で深い学び」を重視した学級活動とは

学習指導要領解説によると、「主体的な学び」の実現とは、学ぶことに興味・関心をもち、学校生活に起因する諸問題の改善・解決やキャリア形成の方向性と自己との関連を明確にしながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の活動を振り返りながら改善・解消に励むなど、活動の意義を理解した取り組みである。学級や学校における集団活動を通して、生活上の諸問題を見だし、解決できるようにすることが大切である。

「対話的な学び」の実現とは、児童相互の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方や資料等を手掛かりに考えたり話し合ったりすることを通して、自己の考え方を協働的に広げ深めていくことである。特別活動は、多様な他者との様々な集団活動を行うことを基本とし、そこでの「話し合い」を全ての活動の中心に置いている。多様な他者との対話や交流を通して、自己の考えを発展させたり、自分のがんばりやよさに気づき自己肯定感や自己効力感を高めたりすることが「対話的な学び」である。

「深い学び」の実現とは、学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、新たな課題を見だし解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることで、学んだことを深めることである。特別活動が重視している「実践」を、単に行動の場面と狭く捉えるのではなく、課題の設定から振り返りまでの一連の活動を「実践」と捉え、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」に関わる基本的な学習過程を意図的・計画的に繰り返す中で、各教科等で学んだ知識・技能などを、集団及び自己の問題の解決のために活用することが「深い学び」の実現につながるのである。

では、「主体的・対話的で深い学び」を重視した学級活動とはどのような活動が考えられるか。

杉田洋編著(2017)「小学校新学習指導要領ポイント総整理特別活動 p 54～75(執筆者・黒木義成)東洋館出版社」の中から以下にまとめる。

	・学級活動(1)学級や学校における生活づくりへの参画	・学級活動(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 ・学級活動(3)一人一人のキャリア形成と自己実現
主体的な学び	学級や学校の生活に関する問題を自分自身の問題として捉えながら、合意形成に向けて進んで話し合い活動に参加し、決定したことに積極的に取り組み、実践後に振り返って、また次の活動につなげる。具体的には、 ・議題箱を設置し、日常的に学級の問題に気づいた時に議題をいれることができ、児童が学級の諸問題に関心を持てるようにすること。	・学級や学校の実生活の中から児童にとって現在及び将来に向けた共通する問題を取り上げ、自らの生活改善に主体的に取り組めるようにすること。 ・自身の行った活動を振り返りながら、よい点や改善点を見いだしたり、新たな課題を発見したりして、向上のための目標をもって生活できるようにすること。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案理由を学級全体で共通理解しながら、目的を明確にした話し合い活動が行えるようにすること。</li> <li>・合意形成を図るために話し合いの活動過程を理解させ、見通しを持った話し合い活動を行えるようにすること。</li> <li>・話し合いから実践までを振り返るカード等を活用し、次の活動につなげるようにすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の確認から決めたことの実践、振り返りまでの変容を記録することや帰りの会等で実践を振り返る場面を設定することなど、児童自身が自らの変容を感じることができるようになる。また、そのための振り返りの視点を事前に示したり、他の児童や教師からの評価を積極的に生かしたりして自己改善に主体的に取り組むことができるようにする。</li> </ul>
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級集団としての課題解決に向けて、多様な考えを出し合い、他者と自分の意見を比べながら、思考を可視化するなど整理し、互いの意見のよさや可能性を生かしながら、合意形成を図り、協働して実践していくことができるようにすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が意思決定を行う過程の、話し合いを重視し、相手の意見を聞いて、自分の考えを広げたり、課題について多面的・多角的に考えたりできるようにすること。</li> </ul>
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前の活動、学級会、実践、振り返りなどの一連の学習過程を繰り返し積み重ねながら、必要な資質・能力を自ら身に付けることができるようにすること。</li> <li>・具体的には、児童が学級生活上の諸問題を自ら発見し、議題として選定するとともに、議題を解決するために話し合い、合意形成により決定したことに基づき、協働して実践し、一連の活動を振り返るなどの活動を充実させること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が自己の課題に正面から向き合い、問題を見だし、解決策などを意思決定し、それに基づき、よりよい自分づくりを追求する活動。そのために、児童が提示された課題をできるだけ自己の課題として受け止め、より具体的な解決策として意思決定できるようにすること。</li> </ul>

本研究では、「主体的・対話的で深い学び」を手立てとして目指す児童像の育成を目指す。

学級生活における課題を自分事として捉え（主体的）、学級をよりよくするために友達と話し合いながら解決の方法を合意形成したり意思決定したり（対話的）、決まったことを友達と協働しながら実践し振り返る一連の過程で得た「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」に関する「気づき」を、日常生活に生かしていく「学び」に変えていけるようにする（深い学び）。

### 3 学級活動の目標と内容

学級活動の目標は、学習指導要領第6章の第2の〔学級活動〕の1で、次のように示される。

学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

これは、学級活動の内容(1)(2)(3)の一連の活動を示している。学校生活の充実と向上に向けて、友達と協力したり、個人として努力したりしながら自主的、実践的な活動を通して活動することの楽しさや成就感、達成感を得たり、自己有用感を高めることにつながるものである。

棒線部は、学級活動「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」における一連の活動を示している。波線部は、学級活動「(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」及び学級活動「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」における一連の活動を示している。

各活動の特質は次の表のように整理できる。

内容	学級活動(1)	学級活動(2)(3)
特質	<u>児童の自発的、自治的な活動</u>	<u>教師の意図的・計画的指導</u>
問題の設定	(児童が)「全員で決定する」議題	「教師が設定した題材」
話合いの手順	「意見を出し合ったり、比べ合ったりしながら話し合う。」「意見の違いや多様性を認め合い、折り合いを付けるなど集団としての考えをまとめたり決めたりして <u>合意形成を図る。</u> 」	「原因や改善の必要性を探ったり、具体的な解決方法などを見付けたりするために話し合う。」「自分に合った具体的な解決方法を決めるなど、 <u>意思決定する。</u> 」
決めたことの実践	自己の役割を果たしたり、自己のよさを生かして協働したりして実践する。	意思決定した解決方法や活動内容について、粘り強く実践する。
振り返り	一連の実践の成果や課題を振り返り、結果を分析し成長を実感したり、次の課題解決に生かしたりするなど、実践の継続や新たな課題の発見につなげる。	実践を定期的に振り返り、意識化を図るとともに、結果を分析し、次の課題解決に生かす。実践の継続や新たな課題の発見につなげる。
育てたい能力	自治的能力	自己指導能力 自己実現の力

(杉田洋 編著「小学校新学習指導要領ポイント総整理特別活動」東洋館出版社 p 34・35 を参考に作成)

この表から分かるように、学級活動(1)は、児童の自主的、自発的な活動であるため問題の設定を児童からの提案によって設定する。ここで取り上げる内容を「議題」という。一方、学級活動(2)と(3)は年間指導計画に基づき教師が意図的・計画的に問題を設定する。ここで取り上げる内容を「題材」という。また、話合いの手順についても、内容(1)が合意形成を図ることが目的であるのに対し、内容(2)と(3)では一人一人の意思決定に導くことが話合いの目的となる。

各活動の特質に即し、教師の適切な指導の下、自主的、実践的な活動を積み重ねることで、児童の自治的能力や自己指導能力、自己実現の力を高めることができると考える。

#### 4 自治的能力を育てる学級活動

杉田洋(2009)は、特別活動で育てたい自治的能力とは、「多様な他者と折り合いをつけて集団決定することができる力」と「集団決定したことをそれぞれが役割を果たしながら、協力して実現することのできる力」の二つだとし、さらに、「このような力は、職場や地域社会などにおいても必ず必要となる力です」と述べている。この自治的能力は、主に学級活動(1)の授業で育てていくことができる。この活動は、学級会を中心に行う児童の自発的・自治的な集団活動である。児童が自分たちの学級や学校の生活をよりよくするために、問題を発見し、課題を見だし、話し合い、合意形成したことを協働して取り組むとともに、一連の活動を振り返り、次の課題解決へとつなげることを通して自治的能力を育てることをねらいとしている。

そこで、学級会における指導について以下にまとめる。

##### (1) 問題の発見の指導

学級会を活性化するためには、児童にとって切実で必要感のある議題を選定することが大切となる。そのためには、日頃から、学級や学校における生活上の諸問題に気付く目を育てる必要がある。本研究では、田中博之氏(2013)が研究を行っている「学級力向上プロジェクト」による理論に基づき、学級の課題を見いだすところから指導を始めた。田中氏によると学級力とは、「支え合う仲間である学級をよりよくするために、子どもたちが共に目標にチャレンジし、豊かな対話を創造して、規律を守り、安心できる環境のもとで協調的な関係を創りだそうとする力」である。望ましい学級といえる状況を表す学級力には、「目標をやりとげる力(目標・役割)」「話をつなげる力(聞く姿勢・つながり)」「友達を支える力(支え合い、仲直り)」「安心を生み

出す力（尊重・仲間）」「きまりを守る力（学習・生活）」の5領域・10項目がある。

これら10項目からなる学級力アンケートを実施し、その結果から学級力レーダーチャートを作成することで、学級力の状況を児童に分かりやすく可視化することができる。児童がレーダーチャートを見ながら、自分たちのクラスの学級力の現状を診断して成果と課題を整理することで、学級の課題を見だし、よりよい学級にするためにみんなで話し合いたいことを議題として提案することができると思う。

## (2) 計画委員会の指導

計画委員会は、話し合いに必要な一連の活動計画を立て運営するための組織である。本学級では、司会、副司会、黒板記録2名、ノート記録、時計係の6名の児童で組織し、輪番制によりどの児童も計画委員を経験できるようにした。話し合いの進め方を学級全員が経験することにより、司会以外の児童が進行についてアドバイスをするなど、学級会の進行が円滑に行えると思う。

事前の活動では、話し合いの進め方について活動計画や進行台本などを児童自身に作成させ、話し合いの流れや時間などについて確認をする。自分の言葉で書いていくことにより学級会当日の話し合いを自信をもって進めていくことができるようにする。また、学級会ノートに書かれた一人一人の意見を事前に確認してどのような意見が出そうか予想を立てたり、板書計画を立てたりしてシミュレーションをしておくことで、話し合いの見通しをもつことができるようにする。計画委員会で決まった内容は学級活動コーナーに掲示したり、朝の会や帰りの会などを使って学級的全児童に伝えたりして共通理解を図る。

計画委員は学級会の成否を決める重要な仕事であるため、一つの議題について事前から事後に至るまで責任をもてるように丁寧に指導をしていく。

## (3) 児童の問題意識を高める手立て

児童が主体的に課題に向き合い、解決に向けて活発な話し合いができるようにするためには、議題に対する問題意識を高める必要がある。学級全員に「自分たちの問題だ」という意識付けをするために、提案理由や計画委員会で話し合ったこと、学級会までに考えてほしいことを呼びかけたり、実生活を振り返り、議題に関する経験や問題の原因などを児童にあげさせて見える場所に掲示したりすることで、児童の問題意識が高まるようにする。また、学級活動(2)や(3)での授業を想起させて議題に対する意識づけを行う。

さらに、道徳科との関連を図る。学習指導要領には、特別活動の指導においては、その特質に応じて、道徳教育について適切に指導する必要があることが示されている(第6章の第3の1の(6))。これは、特別活動の目標と目指す資質・能力が道徳教育がねらいとする内容と共通している面を多く含むからである。道徳科で育んだ心が、特別活動における具体的な活動場面の中に生かされ、児童は様々な道徳的な実践を重ねる。そして、特別活動における多様な実践や体験活動を道徳科の授業で補い、深め、まとめることで、児童の道徳的価値への自覚がさらに深まるのである。

## (4) 児童主体のよりよい合意形成の手立て

宮川八岐(2012)は、「学級会の話し合いは、自分もよくみんなもよいと思えることを、折り合いをつけて決めるための話し合いである。(中略)学級会は、討論で終始し、どの考えが優位にあるかを決めるのではなく、可能な限りの思いや願いを生かし合って合意点を見いだすことが大切である」と述べている。つまり、学級活動における合意形成とは、自分の考えを大切にしつつ、自分とは異なる意見や少数意見も尊重し、折り合いをつけてできるだけ多くの意見を生かす方法を考えることである。

学級会では、「出し合う」→「比べ合う」→「まとめる」を基本の流れとして話し合いを行う。

「出し合う」では、児童一人一人が提案理由や話し合いのめあてに沿って、自分の考えを自由に出し合う。「比べ合う」では、出された意見をよく理解するために、「質問タイム」を設けて、質問を通して意見の内容やそこに込められている思いを確認する。意見の内容を聞き合うこと

が、合意形成を目指す話し合いの基礎となるだろう。次に、出された意見について、提案理由を踏まえて、よりよい解決策を見つけるために賛成意見や反対意見を述べ合わせる「なるほどタイム」を設けた。賛成、反対の理由の確認、数を把握しながら意見をしばっていき、それぞれの意見の違いを明確にしなが、提案理由に合ったよりよい意見にまとめていく。

「まとめる」では、安易に多数決で決定することなく「折り合いタイム」を設けて合意形成を図り、みんなの総意としてまとめることができるようにする。本学級では、折り合いを付ける7つの方法を「折り合いの術」として以下のように児童に示した。

【こころもすっきり「折り合いの術」☆みんなもよくて自分もいい☆】

生まれ変わりの術	・出された意見をもとに、新しい考えをつくる
合体の術	・二つ以上を組み合わせ一つにまとめる。
優先順位の術	・今回は、④の意見を先に決めて行う。他の意見をどのようにあつかうかを考える必要がある。
それならOKの術	・④の意見について条件をつけて賛成する。
いいところどりの術	・出てきた意見を、時間を決めて規模を小さくして全て行う。
ゆずりあいの術	・友達の意見に対する思いやよさをよく理解した上で、自分の意見を今回は取り下げて決定する。
なっとくの術	・多数決で決める。みんなの意見が十分に出しつくされたとき、全員が納得して多数決で決めてもいいと認めたときに行う。

これをもとに、まとめる場においてみんなが納得できる意見を選んだり、意見のよいところを取り入れながら納得したりするなど、一人一人を大切にしたい決定ができるようにする。

(5) 板書を活用した思考の可視化・操作化・構造化

学級会では、様々な意見を出し合ったり、意見を比べたりしながら話し合いを進めていく。しかし、時には、話し合いが混乱してしまいうまく進まない場合もある。その原因として、話し合いの視点がずれていたり、いろいろな意見を整理したりすることができていないことがある。子どもたちから出てきた意見を可視化し、それらを話し合いの流れに即して操作化し、合意形成(収束)までの流れが分かるように構造化していく必要がある。そこで、「出し合う」では、児童から出された意見を短冊に書き出して黒板にはって可視化する。「比べ合う」では、出された意見を操作化し、同じ内容のものをまとめたりいくつかに分類したりすることで意見の種類や内容を児童に分かりやすく整理する。また、話し合いの過程で変化する考えを、短冊を動かすことで表したり思考ツールやマークなどを活用したりすることで、合意形成に向けた話し合いの流れや考えをとらえやすくする(構造化)。

本学級では、以下のような思考ツールを活用して学級会を行った。

短冊(色違いを用意する)	・児童の意見を書き、黒板上で操作しながら話し合いを進める。話し合いで意見が重なったり、たくさんの意見が出されたりしたとき、短冊で意見を分類・整理することで比べやすくなる。また、分類する視点や話し合う視点を短冊に書いておくことで、話し合いを焦点化することができる。
学習の流れカード	・児童が話し合っている内容を確認めたり、話し合いの流れを見通したりすることを助ける。
時計マーク	・計画的に話し合いを進めるための目安になる。
賛成・反対のマーク(色付き磁石)	・話し合いの状況を可視化し、全体像をとらえる上で有効となる。 ・賛成意見の数のみで決定することがないように注意をする。
決定マーク	・決定マークを貼ることで、みんなが決めたという意識を持てるようにする。

## 5 自己指導能力を育てる学級活動

坂本昇一は(1990)で、自己指導能力とは「その時、その場で、どのような行動が適切か、自分で考えて、決めて、実行する能力」と説明している。また、自己指導能力の育成を図る働きかけを①「自己存在感を与えること」②「共感的人間関係」③「自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること」としている。

学級活動「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の内容は、この生徒指導の3機能を生かして「自己指導能力」を育成するプロセスを大切にしている。従って、授業の終末で個人として努力することを決める意思決定は「自己決定の場を与える」という生徒指導の機能を大事にしているのである。意思決定を学習過程の中心に据えている学級活動「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」においても、同様の成果が期待される。学級活動(2)や(3)において、「教師から提示された課題を自分の課題として受け止める」「原因を追求し、解決への意識を高める」「解決方法を話し合いを通して考える」「自己の努力目標を決める(意思決定)」という一連の指導過程を重視することにより、児童に自己実現の喜びを味あわせることができるのである。

学級活動(2)(3)の授業では、意思決定したことをある一定期間粘り強く実践していくため、実現可能な具体的な方法を決めさせる必要がある。そのため、意思決定に向けた話し合いでは、題材に対する児童の問題意識を高め、適切な情報を共有しながらできるだけ自分に合った具体的な方法を意思決定できるようにする。一連の実践を通して、児童が「自分もやればできる」「がんばってよかった」などの自己効力感や自己肯定感を高めることで自己指導能力の育成につなげていく。

## 6 学びに向かう力を育む振り返りの充実

学習指導要領に示される学級活動の学習過程は、どの内容においても「①問題の発見・確認→②解決方法の話し合い→③解決方法の決定(合意形成・意思決定)→④決めたことの実践→⑤振り返り→⑥次の課題解決へつなげる」となっている。いずれの内容においても「振り返り」の後に「次の課題へ」が示され、実践した結果をしっかりと分析し、自分を客観的に見つめ、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりできるよう、学びの積み重ねが意図されている。

児童が、学級や学校生活の向上や自己の成長に主体的に取り組むようになるためには、学級活動における一連の実践を通して自己有用感や自己肯定感をもてるようにすることが大切だと考える。学級活動(1)を中心とした自発的、自治的な活動を通して、児童は互いに協力し合い認め合う中で、自分が他者の役に立つ存在であることを実感し、自分のよさや可能性を発揮して自信をもてるようになるだろう。また、学級活動(2)(3)の活動を通して、よい点や改善点を見だし、新たな課題の発見や目標の設定を行ったり、自分のよさやがんばりに気づき、自己肯定感を高めたりするだろう。その実現のためには、自己評価や相互評価による振り返りの充実が求められる。

振り返りの方法として、自己評価カード(がんばりカード)を活用する。各自が学級会で決まったことや意思決定したことを常に意識して行動し、振り返らせ、日々の努力する様子が分かるようにすることで実践意欲の継続化を図るようにする。また、帰りの会の「いいところ見つけ」や活動後の話し合いで児童が個々の努力を互いに認め合い励まし合う相互評価の場を設定するなどして、みんなで振り返りができるようにする。このことは、実践の継続化や日常化、共感的な人間関係づくりにつながる。また、成果が実感できない児童が個人目標を修正したり実践への意欲を高めたりするきっかけにもなると考える。さらに、次の課題解決へと活動をつなげるために児童の活動を記録し蓄積していくことも大切である。例えば、事前の活動で準備したアンケートや資料、本時や事後の活動、実践場面で活用する自己評価カード等を学級活動ファイルに綴じ、自己の成長を振り返ることができる材料として身近に保管させるようにする。また、学級便り等を通して、児童の努力の様子を家庭へも伝え、保護者からのコメントや励ましをもらえるようにしたり、学級会や活動の様子などを学級活動コーナーに掲示したりして活動の足跡が残るようにする。

## VI 指導の実際

### 1 第1回検証授業（11月28日）

#### (1) 題材名「いただきます大作戦③～健康によい食事とは～」

学級活動（2）エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

#### (2) 題材について(授業の概要)

本題材は、健康によい食事の仕方を理解し、望ましい食習慣の形成を図るとともに、食事を通して人間関係をよりよくしようとする自主的・実践的な態度の育成を目指している。一方、本学級の児童は健康によい食事のとり方や食事のマナーについての理解や関心が薄いという実態があり、自分の食生活を見直し、よくしようとする自己指導能力を育てたいと考えた。

指導に当たっては、食に関する意識調査や給食残量調査の結果を使って自己の現状を把握させるとともに、保護者アンケートの結果から保護者の思いや願いに触れさせることで、課題を自分の事として捉えることができるようにした。

本時では、高校の家庭科教諭でもある保護者を特別講師として招き、チームティーチングによる授業を行った。栄養指導の専門家と保護者としての立場の両方で指導をしていただくことで、児童の課題を解決しようとする意欲を高めることができるであろうと考えた。

#### (3) 事前の指導

日時	活動内容	・指導上の留意点 ☆【評価】
11/15(金)	・食に関する事前アンケート調査実施。	・児童の実態を把握する。
11/18(月) ～22(金) 給食時間	・給食残量調査実施。個人でがんばりカードに食べたかどうかを記録し、感想を書く。 ・保護者アンケート回収。	・献立ごとの残量を調査する。 ・無理に完食させるのではなく、現状把握のためであることを確認する。 ・結果を掲示して全体で課題を共有する。
		アンケートや残量調査の結果は「学級活動コーナー」に掲示して、現状の把握と課題の共有化を図る。
第1次 11/19(火) 4校時	「いただきます大作戦① ～給食を食べときの約束は?～」 ねらい：給食時間のきまりや楽しい食事の在り方について考え、気持ちのよい食事をするための目標を決め、実行する。	・給食時間の過ごし方について決めたことを一週間実行する。 ・学習の様子や目標を掲示する。 評価：【思考・判断・表現】 ☆食事のマナーについて話し合い、多様な意見を基に、今の自分にできることを意思決定し、実践できたか。
		指導後、清潔に配慮して、給食台の周りの床の汚れを丁寧に拭き取る姿が見られた。
第2次 11/26(火) 4校時	「いただきます大作戦②」～朝ごはんを食べて3つのスイッチを入れよう。～ ねらい：朝ごはんを食べると体や心にスイッチが入り、元気な体や落ち着いた気持ちになることが理解できる。	・「くわっちーさびら」 p30～p33 ・保護者と連携して家庭でも取り組ませる。 ・学習の様子や目標を掲示する。 評価：【知識・理解】 ☆体と心を活動できる状態にするためには、朝食が大切であることが分かったか。
		「朝ごはんせんげん」として、それぞれががんばることを決めて掲示し、実践への意欲を高める。

#### (4) 本時のねらい

体のことを考えてバランスのよい食べ方をすることの大切さを知り、健康によい食事をするために今の自分にできることを意思決定できる。

(5) 展開

過程	学習活動・内容・発問等	予想される児童の反応	指導上の留意点・評価
導入	<p>つかむ(3分)</p> <p>1 本時の課題をつかむ。 ・保護者アンケートを提示する。</p> <p><b>発</b>: 健康によい食事のとり方ってどんな食べ方だろう？</p> <p>めあて: 健康によい食事をするために、今の自分にできることを決めよう。</p>	<p>・自分の食事の摂り方と結びつけて考える。</p>	<p>・わが子に健康な食事をしてほしいと願う保護者の思いに触れさせ、課題を自分の事として捉えさせる。 ・意思決定するという本時のゴールを確認する。</p>
展開	<p>さぐる(14分)</p> <p>2 バランスの偏った食事をするとどうなるか考える。 T1: 特別講師の紹介。 T1: 「先生はマラソンが好きだから、コーラとハンバーガーとポテトのセットを毎日食べるともっと早く走れるね。」 T2: このままでは健康によくないことを指摘し、赤・黄・緑の食品のそれぞれの働きを説明する。(7分) ※3つの食品群の揭示物。</p> <p>T1: 「分かりました。じゃあ、サラダも付けます。3つそろったので毎日食べてもいいですね。」 T2: 「実は、まだ問題があります。」</p> <p>3 T2の話聞いて、健康によい食べ方について知る。(7分) ・3つの食品をバランスよく摂ること ・よく噛むこと ・食べる順番(三角食べ) ・時間を意識すること</p>	<p>○T1とT2の掛け合いを聞いて、バランスの偏った食事を続けるとどうなるのか考える。 ・野菜がないから、病気になってしまう。毎日だと体に良くない。</p> <p>・赤は、主に体をつくるもとになる食品だ。 ・黄は、主にエネルギーのもとになる食品だ。 ・緑は、主に体の調子を整える食品だ。 ・赤・黄・緑が全部そろったから大丈夫。 ・野菜が少ない。脂っこい。毎日食べると、病気になってしまう。</p> <p>○T2の話をもとにして3つの食品をバランスよく摂る事の必要性や、よく噛む、三角食べをする、時間を意識するなどの健康によい食べ方について理解する。</p>	<p>・ファストフードの写真を提示。 ・児童をゆさぶる発言で、バランスよく食べることの必要性を考えさせる。 T2: 自動車に例えて説明する。赤(部品)・黄(ガソリン)・緑(エンジンオイル) 【知識・理解】 ☆3つの食品群の働きを理解できる。</p> <p>【知識・理解】 ☆健康によい食べ方が分かる。</p>
	<p>見つける(15分)</p> <p>4 健康によい食事の仕方を話し合う。</p> <p><b>発</b>: 健康によい食べ方とはどんな食べ方ですか。田中先生の話をもとに考えよう。</p> <p>※出てきた意見に対して、T1がゆさぶり、T2で助言を行う。</p>	<p>○T2の話をもとにして健康によい食べ方の工夫を考える。 ○版書されたキーワードをもとに考える。 ○個で考える(5分) ○全体での交流する(10分)</p>	<p>・考えが浮かばない児童は友達の考えをもとに自分なり意見を持たせる。 ・意図的な指名をして本当に実行可能な意見なのかゆさぶり、意思決定への具体的な方法を考えさせる。</p>
終末	<p>決める(13分)</p> <p>5 これから家庭や学校での食事をどのように食べていくか、意思決定する。 T2: 保護者の思いや願いを話す。</p> <p><b>発</b>: がんばることを決めよう。</p> <p>・意思決定する。(4分) ・グループで交流する。(6分)</p> <p>6 本時の振り返りをする。(3分) ・今日の学びのよさを発表し合う。</p>	<p>・好き嫌いせずに、毎日完食する。 ・苦手なものも、少しずつでも食べられるようにがんばる。 ・赤・黄・緑の食品をバランスよく食べる。 ・三角食べをする。 ・良く噛んで、姿勢よく食べる。 ・感謝をこめて、「いただきます、ごちそうさま」をしっかりと言う。 ・食べる時間が増えるように準備を早くする。 ・おしゃべりで食べる時間がなくならないように気をつける。</p> <p>○お互いのよさや努力を認め合う振り返りを書く。</p>	<p>・実行可能な目標を立てさせる。 ・友達の意見に共感したり助言したりさせる。 【思考・判断・表現】 ☆健康な食事の仕方について話し合い、多様な意見を基に、今の自分にできることを意思決定できる。 ・お互いに認め合える雰囲気を作る。</p> <p>・実践への意欲付けをする。</p>

本時のポイント  
意思決定への

児童同士の助言、  
励ましを具体的な意  
思決定へと繋げる。

## (6) 事後の指導

日時	活動内容	・指導上の留意点 ☆【評価】
11/28(木) ～12/4(水)	・自己決定したことを実行し、目標が達成できたか振り返る。(がんばりカード) ・「いいところ見つけ」でお互いのよさや努力を認め合う。	・声かけをして目標達成に向けて意欲を高める。 【主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度】 ☆望ましい食習慣を形成するために、自分に合った目標を立て、他者と協働して目標の達成に向けて粘り強く取り組んだり、お互いのよさを認め合ったりしている。
12/6(金) ～12(木) 給食時間	・給食残量調査実施。 ※個人でがんばりカードに食べたかどうかを記録し、感想を書く。 ・「いいところ見つけ」でお互いのよさや努力を認め合う。	・前回の残量調査と比較し、望ましい食習慣を形成しようとする自己指導能力が身についたか検証する。 ・保護者に活動の様子を知らせ、コメントをもらい継続して実践しようとする意欲を持たせる。
3学期	・「野菜を食べよう大作戦」	・「くわっちーさびら」 p 36～p 44 ・苦手な野菜でも、好き嫌いせずに食べようとする事ができる。

## (7) 具体仮説(1)の検証

意見を比べ合い、解決方法を見つける場において、思考を可視化する板書の工夫をしたり、多様な意見を基に折り合いを付けて意見をまとめさせたりすることで、よりよい合意形成や意思決定ができるであろう。

本時における具体仮説(1)の検証内容は、次の通りである。

**場**・・・学級活動(2)の一連の学習過程 ⇒ つかむ→さぐる→見つける→決める

**手立て**・・・①特別講師による専門的な講話と助言

②健康によい食べ方についてのキーワードを可視化

③友達との2度の話し合いの場(全体や少人数グループでの交流)

**目指す子どもの変容**・・・健康によい食べ方についての考えを深めたり広げたりできる。そのことで意思決定の内容がさらによいものに変わったり、実行への意欲を高めたりできる。

上記の内容を、学級活動(2)の一連の学習過程の場で検証する。

### 【授業の様子と仮説の検証】

#### つかむ

本時の課題を捉えさせるために保護者アンケートを活用し、わが子に健康な食事をしてほしいと願う保護者の思いに触れさせることで、課題を自分の事として捉えることができた。



#### さぐる

栄養指導の専門家でもあり、本学級の保護者でもあるT2の話に熱心に耳を傾けたり、問いかけに意欲的に反応したりするなど興味・関心を持って聴く姿が見られた。3つの食品群の働きは児童にとっては初めて学習する内容だが、自動車に例えて説明することで、3つの食品の働きをイメージすることができた。また、キーワードを可視化して、健康によい食べ方への理解に繋げた。T1が栄養の偏った献立を意図的に提示すると、多くの児童がこのままでは健康によくないことに気づくなど、本時の課題を自分事として捉えている様子が見られた。



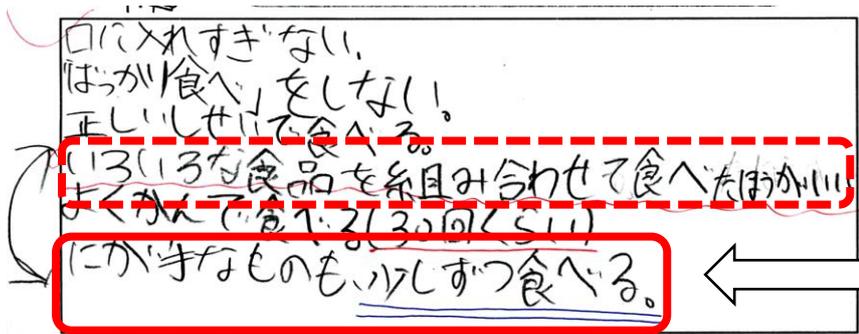
見つける

発：健康によい食べ方とはどんな食べ方ですか。田中先生の話をもとに考えよう。

多くの児童が「つかむ」でのT2の話に基づいた意見を書くことができた。しかし、体によい食べ方への理解を深めることができて、実際の食生活では実行できていない児童も多い。そこで、児童から出てきた意見に対して、「本当に実行可能なのか、実行するためにはどうすればよいのか。」とゆさぶりをかけ、T2からの助言をもとに具体的な解決方法を考えさせ、意思決定へと繋げていった。



【抽出児童①】(好き嫌いが多く、給食時間が嫌いと言った児童のワークシート)

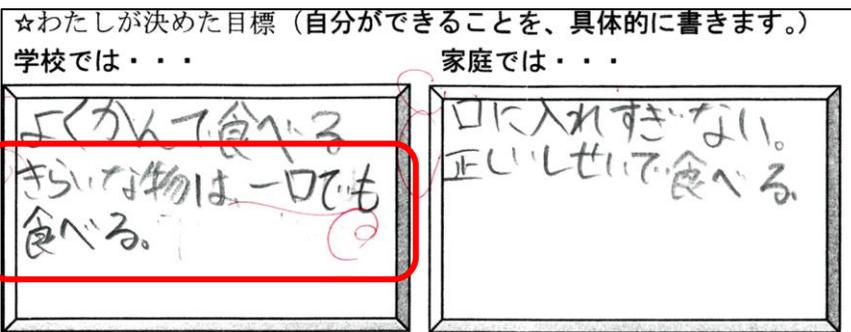


この児童は、理想的だが実際には今の自分には実行できない内容を書いてきた。意図的に指名し本当に実行可能かゆさぶった。その後、T2の助言を受けて、「にかまなものを、少しずつ食べる」という自分が実行可能な解決方法を付け加えることができた。

決める

発：これから家庭や学校での食事をどのように食べていくか、自分ががんばることを決めよう。

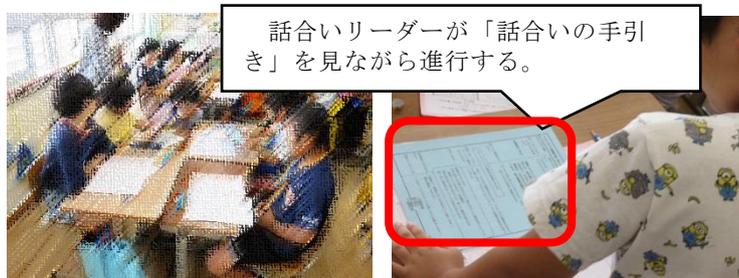
【抽出児童①の意思決定】(がんばりカードへの記述)



友達やT2の助言を受けて、自分が実行可能な目標を意思決定することができた。  
嫌いな食品をいきなり全部食べるのではなく、一口でも食べることから始めて少しずつ量を増やせるようにする。

【交流タイムの様子 (決めたことをグループ→全体で交流する)】

交流タイムでは、意思決定したことをグループで発表し合い、友達の意見に対して、励ましたり助言をしたりする。その後、全体で交流して決めたことを共有し、実行への意欲を高める。



《検証結果1の考察》

- ・導入で、保護者アンケートの結果を提示して保護者の思いに触れさせたり、栄養指導の専門家でもある保護者を特別講師(T2)に招いたりしたことで、児童が本時の課題に問題意識を持って学習ができ、健康によい食べ方についての理解を深めることができていた。
- ・課題の解決方法を話し合う場を2度設定して多様な意見に触れさせたり、キーワードを使って思考

を可視化したりすることで、今の自分にできる具体的な目標を意思決定するなど主体的に解決方法を考えることができた。

・健康な食べ方について、児童自身の言葉ではなくT2の話から出てきたキーワードだけを書く児童もいた。課題を自分事として捉え、解決のための考えをもてるようにするために、問題意識を高める工夫が必要である。

(8) 具体仮説(2)の検証

一連の学習過程の中で、振り返りを重視し、お互いのよさを認め、励まし合う場を繰り返し設定することで、自己有用感や自己肯定感が得られ、学級や学校生活をよりよくしようとする自治的能力や自己指導能力を育てることができるであろう。

具体仮説2の検証内容は、次の通りである。

**場**・・・決めたことの実践の場 振り返りの場

**手立て**・・・①「がんばりカード」を活用して自分のよさや成長を記録し蓄積していく。  
②振り返りで自分と友達のよさに目を向けさせ、互いに認め合う場を数多く設定する。  
③事後指導として、残量調査やアンケートを実施して自分の変容に気づかせる。

**目指す子どもの変容**・・・①自己有用感や自己肯定感を得る。(よさの認め合い、実践意欲の高まり、自分の成長への気づき、新たな目標の決定など)  
②自分の食生活をよくしようとする自己指導能力を身に付ける。

以上の内容を、振り返りの記述やアンケート結果、第2回給食残調査の結果から検証する。

【授業後】

給食時間に本時で学んだ内容について友達同士で話したり、嘔む回数を数えたりしながら食べる様子が見られた。この日の給食では、これまでで最多の21名の児童が完食できた。



「今日の献立の主食は、主菜は・・・」  
「これは、赤の仲間、そっちは黄、じゃあ緑は・・・」

【実践後の振り返り (抽出児童)】

よくできた…全部ぬる。 ややできた…内側だけぬる。 できなかった…ぬらない。

11/28(木)	29(金)	12/3(火)	12/4(水)	12/5(木)

☆行動をふり返って、自分ががんばったことやできるようになったこと、これからも続けていきたいことを書く。

ぼくは、一日だけきらいな物を食べ、  
わがからたことかあは理由は、とても、き  
らいな食べ物かいたからです、きらいな  
物を少しでも多くきらいな食べ物を食べる。

☆あなたの「いいね!」でもかんばって食べたので続けていきます。

家庭から

先生から  
きらいな物も食べれるように  
しようと努力しているすかたが見ら  
れますね。来週は、おうちでも目標が  
達成できたら教えてね。

次は、5口はたべよう

実践をした5日のうち、4日、自分のめあてを達成できた。できなかった理由を考えさせることで、「少しでも多く嫌いなものを食べる。」「(これまでと比べて) がんばって食べられたので続けていきたい。」「きつねうどんが食べられなかったが、次は、5口食べる。」と書くなど、自分の成長に気づけたり、新しい課題を見つけ、具体的な目標を決めたりすることができている。自己指導能力や自己実現の高まりを感じる。



嫌いだけど、がんばって少しでも食べよう

【第2回残量調査の様子】

抽出児童②のがんばりカード (完食した…○ 半分以上食べた…△ 半分以上残した…×)

主眼食へん…○	半分以上食べた…△	半分以上残した…×
こんだて表		
6日(金) ホイコーロ みかん わぎごはん チザンライス	感想(できた、できなかった、新たな問いなど) 今日、ホイコーロが食べられなかった でもそれがいいはほとんど 食べれた。すいいん、もう少くても 次もがんばりたいです。	
9日(月) チーズ アーサそうすい につけ	につけ以外 がんばり。 アーサそうすいは、あまり好きじゃ ないけど食べれた。 だいがくもおいしかった。	
10日(火) はるまのサラダ ちくわのうめやき もちきびごはん はっばらさい	ちくわのうめやき、はっばらさい以外 完食。ちくわのうめやきはおいしく なかったのでも食べれた。 次はがんばって完食したいです。	
11日(水) フルーツらたま あまパン おだいのポークスープ	スープ以外完食。 全部○はともおいしかった。 △のスープは、あまりおいしくありません でした。さのうより△がないので うれしかったです。次もがんばりたいです。	
12日(木) ごぼうサラダ ひじきやさいとうがらし わぎごはん とうがねくとうがね	ごぼうとうがらし以外の 完食。さのうより、△が多かった。 でも×がなくなってきたのでうれし かったです。	

活動後の振り返り

☆振り返り(前回と比べてがんばったこと、これからも続けていきたいこと、友達のよき。)

△が1つの日が2日もあったのでうれしかったです。  
×もなくなってきたのでうれしかったです。  
これからも糸売っていきたいです。

この児童も、給食時間が嫌いだと答えた児童の一人である。前回の残量調査と同様、今回も一日も完食できた日はなかった。しかし、毎日の感想には、結果だけでなく、自分が努力したことや献立に関する感想、次に頑張りたいこと等を細かく記入している。

最後の振り返りには、「△や×が減ってきてうれしかったこと、これからも続けていきたいこと」などを書いている。「がんばりカード」を見ることで、自分自身の努力や成長の様子を振り返ることができる。完食こそできなかったが、「自分もやればできる」という自己効力感を味わうことができたのではないかと。

☆振り返り(前回と比べてがんばったこと、これからも続けていきたいこと、友達のよき。)

前日もパーフェクトできて、今もパーフェクトできてうれしかったです。これからもずっとがんばりして、目標もつづけていきたいです。

☆振り返り(前回と比べてがんばったこと、これからも続けていきたいこと、友達のよき。)

前回と比べて、完食にいい日が増えました。また今日は、完食ができました。これからも、完食は1週間に1回はできるようにしたい。

学習前の残量調査でも今回の残量調査でも、5日間で完食した回数の平均は3.2回と変わらなかった。しかし、活動後の振り返りを見ると、多くの児童が前回と比べて自分の努力や成長を感じることができたようだ。また、今後に向けての新しい目標を決めることもできている。

《検証結果2の考察》

- ・がんばりカードを活用して活動の過程を蓄積させることで、自分の目標や課題を常に意識できるようになり、自己の成長に気づいたり、新しい課題を見つけて目標を決めたりしていた。自己肯定感や自己効力感の高まりが見られる。
- ・給食時間の決まりやマナーを守ったり、苦手な食品も完食しようと努力したりする様子が見られた。望ましい食習慣を形成しようとする自己指導能力が身につけてきた。

2 第2回検証授業(1月30日)

- (1) 議題 「みんなで安心できるクラスをつくろう」  
学級活動(1)ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
- (2) 議題選定の理由

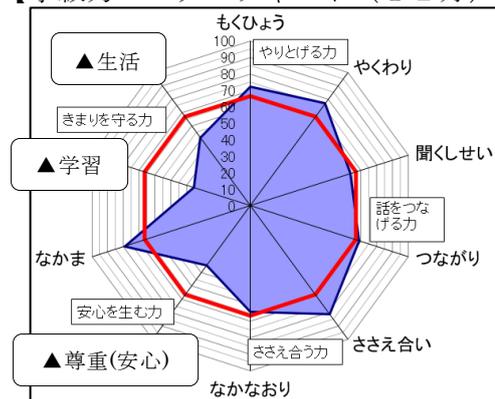
学級力アンケートの結果によるレーダーチャートを見ると、本学級は『決まりを守る力』の「学習」及び「生活」と『安心を生み出す力』の「尊重」の3つの項目の評価が低いことが分かった。学習規律や学校の決まりをまもる力、友達の心を傷つけることを言ったり、からかったりしない力に課題がある。結果を分析した児童からは、「走ってぶつかりそうになったりケガをしたりする人が多いからだ」「おしゃべりが多くて授業に集中できないからだ」「けんかが多い。ちくちく言葉が多いからだ」という声があがった。その後、学級会に向けた議題を募集すると、次のような提案

カードが提出された。

【児童による提案カードの内容】

議題の内容	人数
・安心できるクラスにしたい (悪口やいじわるをなくしたい、けんかをなくしたい)	6名
・ろうかを走らないようにしたい ・みんなの集中力を高めて、授業に集中できるようにしたい	4名
・ドッチボール大会でけんかが起きないようにしたい	2名
・「レク集会(お正月集会、節分パーティー、4年生お疲れ様会など)」の計画を立てたい	12名
・友だちの似顔絵を描きたい	1名

【学級力レーダーチャート(12月)】



集まった議題案について、計画委員会で学級生活の向上のために、「全員で話し合うべき議題かどうか」「学級内の問題で、学級全員が協力しなければならない議題かどうか」「早く解決すべき議題かどうか」などの視点で整理し、どの議題案を取り扱うか話し合った。レク集会の計画を立てるという議題案が一番多く出されていたが、児童から、緊急性のあるものから取り上げたほうがよいことや学級力レーダーチャートの評価の低かった力を取り上げたほうがよいという声があり、今回は「みんなで解決したいこと」に関する視点で議題を取り上げることとなった。計画委員会で選定した議題は、朝の会でその理由とともに全員に伝え、了承を得て決定した。

本時の「みんなで安心できるクラスをつくろう」という議題には、一人の女子児童が提案理由に書いた「発表すると嫌なことやチクチク言葉を言われることがあるのでそれをなくしたい。」という切実な思いが込められている。また、12月にも、友達が文句を言われて困っていることやけんかが多いので解決したいという議題案が出されていた。

このような児童の思いや願いを話し合いの中心に据え、児童が自分たちの学級をよりよくするために、問題を発見し、話し合い、合意形成したことを協働して取り組むとともに、一連の活動を振り返り、次の課題へとつなげることを通して自治的能力を育てたいと考え、本議題を設定した。

(3) 事前の活動

【計画委員会の活動計画】

日時	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿(観点)【評価方法】
1/24(金) 朝の活動	・提案ポストの議題案を確認して選定する。 ※月曜日の朝の会で全体に提案する。 ・役割分担をする。	・議題選びの視点を念頭において選定することを指導する。	◎よりよい学級生活をつくるために、進んで議題の選定をしようとしている。(主体的に取り組む態度)【提案カード、観察】
1/27(月) お昼休み 放課後	・活動計画を作成する。(提案理由、話し合うこと、決まっていること(条件等)の確認) ・学級会コーナーに掲示して全員に知らせる。	・実態を踏まえ、日時や場所などの条件を教師が設定する。 ・提案者の思いや願いを学級全体の共同の問題になるように、提案理由をしっかりと深めるようにする。	◎計画委員会の役割、話し合いの進行の仕方等を理解している。(知識・理解)【活動計画、観察】
1/29(水) お昼休み 放課後	・学級会ノートに目を通し、書かれた意見を整理する。 ・学級会のシミュレーションと板書計画をする。	・出された意見から話し合いの見通しがもてるように助言する。必要に応じて短冊に記入しておく。	◎話し合いの見通しを持つことができている。(知識・理解)【活動計画、観察】



次回の学級会に向けての議題や提案理由、お願いしたいこと、司会グループの割り当てや出された議題の取り扱いの仕方などを全体に知らせる。また、提案ポストを設置していつでも提案ができるようにする。

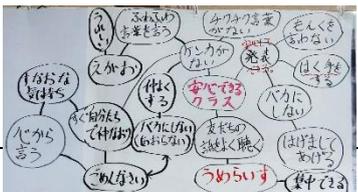


【学級全員の活動計画】

日時	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 (観点)【評価方法】
1/27(月) 朝の会	・議題を決定する。	・計画委員会の提案のもと、学級全員で決定する。	◎学級生活をよりよくするために、進んで議題を考えたり決定したりしている。(主体的に取り組む態度)【観察】
1/28(火) 帰りの会	・学級会ノートに自分の考えを記入する。	・話し合うことや決まっていることが共通理解できるよう必要に応じて助言する。	◎議題の目的に合った意見を考え、判断し、ノートに書くことができる。(思考・判断・表現)【活動計画、観察】
1/30(木) 朝の会	・学級会ノートを受け取る。 	・学級会ノートに励ましの言葉等を記入し、話し合いの意欲を高める。	◎学級生活をよりよくするために、意欲的に学級会に取り組もうとしている。(主体的に取り組む態度)【観察】

事前に目を通し、励ましのコメントのほか議題の解決につながる記述にラインを引いておくことで、話し合う際の視点を持たせるとともに、意欲を高める。

【問題意識を高めるための事前の指導】

日時	活動内容	・指導上の留意点 ☆【評価】
1月14日(火)	・「理想の学級」とはどんな学級か。ビッグカルタ(ウェビングマップ)を使ってイメージの共有化を図る。	・学級全員の考えを取り入れたビッグカルタを作成し、教室内に掲示する。 【主体的に取り組む態度】 ☆学級生活をよりよくするために、理想の学級について具体的に考えたり、意欲的に話し合いに参加したりしている。
1月15日(水)	・学級力レーダーチャートを分析し、評価の低い項目について、それぞれの原因や背景について話し合う。	・前日にあげた理想の学級と現状とのギャップから解決すべき議題に気付かせる。 ・学級力の課題について考える際は、個人名を出さないようにする。 【思考・判断・表現】 ☆学級生活をよくするために、改善すべきことに気付くことができている。
1月15日(水) ～17日(金)	議題の募集	・提案理由を明確にして提案させる。 ・学級力アンケートの結果を踏まえて考えさせるが、必ずしも各項目の内容に沿っていなくてもよいことを伝える。 【思考・判断・表現】 ☆学級生活をよりよくするために、課題を見いだし議題を提案することができている。
1月20日(月)	・「折り合いの術」を使った合意形成の仕方について指導する。	・「折り合いの術」は教室内に掲示したり、学級会ファイルに張らせたりして、いつでも確認ができるようにする。 【知識・理解】 ☆折り合いをつけた合意形成の手順や方法について理解している。
1月23日(木)	・11回学級会 議題「決まりを守る力」を高めて、もっとかがやく2組しよう。	【思考・判断・表現】 ☆学級をよりよくするために、提案理由や話し合いのめあてに沿った解決方法を考え、話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図ることができている。
1月27日(月)	・「安心できるクラス」とはどんな学級か。ビッグカルタを使ってイメージの共有化を図る。 	・自分の考えを持たせるための手立てとなるように、ビッグカルタを教室内に掲示する。 【主体的に取り組む態度】 ☆安心できるクラスについて具体的に考え、学級会への意欲を高めることができる。
1月28日(火)	道徳科授業 主題:「よりよい学校生活・集団生活の充実」(C主として集団や社会との関わりに関すること)	・話し合いの場では、特別活動との指導方法の違いに配慮し、「学級をよりよくするために大切なことはなにか」を道徳的価値の理解を深めながら、自分自身の生き方についての考えを深めていくようにする。 ☆明るく楽しいクラスや学校をつくるために、大切だと思うことを自分なりに考えることができる。

(4) 本時のねらい

提案者の気持ちに寄り添い、みんなが安心してすごせるクラスにするために、友達の意見のよさや思いを認め合いながら、折り合いをつけて合意形成を図り、集団決定することができる。

(5) 教師の活動計画

過程	話合いの順序	指導上の留意点	◎目指す児童の姿(観点)【評価方法】
導入	1 はじめの言葉 2 計画委員会の自己紹介 3 議題・提案理由の確認 4 めあての確認 5 先生の話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級会を前に、明るく楽しい雰囲気をつくる。</li> <li>・役割、名前、めあてをはっきりとした声で言えるように事前に指導する。</li> <li>・提案者の思いや願いを確認し、学級全体の問題であることを捉えさせる。</li> <li>・声をそろえて言えるように指導する。</li> <li>・提案理由を確認し、決めることのポイントをキーワードにして板書する。(提案理由の構造化)</li> </ul>	◎議題に対して問題意識を持ち、みんなで話し合っ解決しようとする意欲を高めている。(主体的な態度) 【発言・行動観察】
展開	6 話合い話し合うこと①  (1)グループでの話し合っ決める  話合いの流れ 【出し合う】 【比べ合う】 【まとめる】  (2)全体での話合い  ①質問タイム  ②なるほどタイム(賛成・反対意見)  ③折り合いタイム	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">安心できるクラスにするために、みんなががんばることを決める。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表が苦手な児童もいるため、事前に自分の考えを書かせておき、全員が発表できるようにする。</li> <li>・話合いがスムーズに進むように、机間指導で適時助言を行う。</li> <li>・質疑応答でお互いの意見をより深く理解できるようにする。</li> <li>・「折り合いの術」を使ってまとめさせる。</li> <li>・時間を意識しながら進めさせる。</li> <li>【出し合う】: 各グループの意見を発表する。</li> <li>・自分のこれまでの経験をもとに理由を述べさせ、根拠のある意見を発表させる。</li> <li>・考えや思いが伝わるように短冊の書き方を工夫させる。</li> <li>【比べ合う】: どの意見がいいか比べる。</li> <li>・それぞれの意見への理解を深めるために、分からないことや疑問に思ったことを質問させる。</li> <li>・反対意見ばかりにならないように、相手の意見のよさに目を向けさせる。</li> <li>【まとめる】折り合いを付けて合意形成する。</li> <li>・司会が進行に困ったときは、方向性を示唆するが、児童の合意形成を方向付けるような助言はしない。</li> <li>・自分の意見に固執せず、納得した上で考えを変えるなど、折り合いを付けることも必要であることについて助言する。</li> <li>☆折り合いを付けた合意形成の視点</li> <li>・提案理由やめあてに沿っているか。</li> <li>・「折り合いの術」のどれを使ってまとめられるか。</li> </ul>	◎みんなが安心してすごせるクラスになるように、友達の意見を参考にしながら折衷案を考えて発言したり、みんなの共感を得られるような解決案をだしたりしている。(思考・判断・表現) 【発言・行動観察・学級会ノートの記述】 ◎これまでの話合いの経験を生かして、合意形成を図るための話合いの進め方や約束を理解している。(知識・理解) 【発言・行動観察】
終末	7 決まったことの発表 8 いいところみつけ 9 先生の話 10 おわりの言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いのよさや成長に目を向けた発表をさせる。</li> <li>・終末の助言では、①合意形成したことへの価値づけや個人や集団への称賛、②今後の課題、③計画委員へのねぎらい、④今後の見通しや実践に向けての意欲付け等について簡潔に述べ、特に前回の話合いと比べての変容を称賛する。</li> </ul>	◎お互いのよさや成長に目を向けた記述や発言をしている。(主体的な態度) 【発言・学級会ノートの記述】

(6) 事後の指導

日時	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童像(観点)【評価方法】
1/30(木) 学級会后	・学級会で決まったことを学級活動コーナーに貼り出す。	・全員が意識できるように書き方や貼り出しの仕方を工夫するように助言する。	◎合意形成したことをもとにみんなで協力し、進んで実践しようとしている。(主体的に取り組む態度) 【発言・記述】
1/31(金) ～	・朝の会で、決まったことを全員で読み上げる。 ・決まったことを実践する。 ・帰りの会の「いいところ見つけ」でがんばっていた児童を発表し合う。	・自分と友達のよさに目を向けさせ、互いに認め合う場を数多く設定する。(朝・帰りの会、適時) ・努力している児童や友だちと協力している児童を称賛する。	◎決まったことを意

2/7(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一週間やってみての中間の振り返りをする。</li> <li>・活動は今後も継続して行く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学級会ノート」や「振り返りカード」を使って、話し合いから実践までを振り返ることができるようにする。</li> <li>・今後も継続して活動するように意欲付けをする。</li> <li>・活動の様子を学級だよりや児童の日記等で家庭にも伝える。</li> </ul>	<p>識しながらお互いに声をかけ合い実践している。  (思考・判断・表現)  【発言・行動観察】</p>
--------	---	--	--

(7) 具体仮説(1)の検証

意見を比べ合い、解決方法を見つける場において、思考を可視化する板書の工夫をしたり、多様な意見を基に折り合いを付けて意見をまとめさせたりすることで、よりよい合意形成や意思決定ができるであろう。

本時における具体仮説(1)の検証内容は、次の通りである。

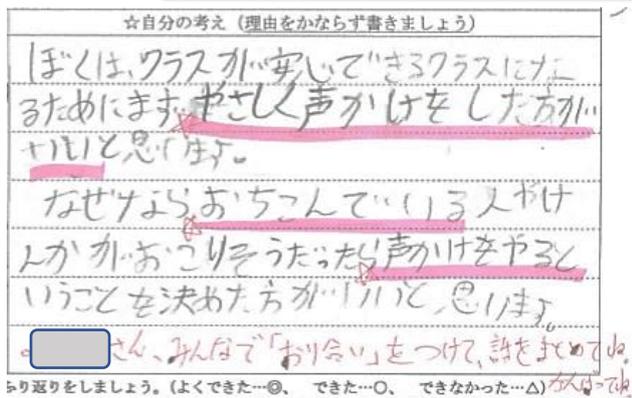
**場** ……学級会の一連の学習過程【出し合う】→【比べ合う】→【まとめる】

**手立て**…①問題意識を高める指導と計画委員会の事前指導を充実させる  
②「比べ合う」場において板書を工夫して、児童の思考を可視化・操作化・構造化する  
③「まとめる」場において、「折り合いの術」を活用して意見をまとめさせる

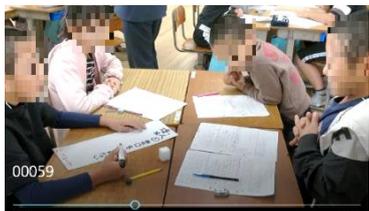
**目指す子どもの変容**…①児童が課題を自分事として捉え、主体的に話し合うことができる。  
②友達の意見のよさや思いを認め合いながら、折り合いをつけて合意形成を図り、集団決定することができる。

以上の内容を、学級会の一連の流れの中で検証する。

【出し合う】 提案理由や話し合いのめあてに沿って、自分の考えを自由に発表し合う



・事前に自分の考えを書かせておくことで、発表が苦手な児童も安心して発表することができた。また、教師が事前に目を通し、励ましのコメントを書いたり、議題の解決につながる記述にラインを引いたりすることで、話し合いの視点を持たせるとともに意欲を高めることができた。この児童は、提案理由を踏まえ、解決するための具体的な考えとその理由を書くことができていた。



・このグループの話し合いでは、出てきた4つの意見を似たような意見を合わせて一つにまとめ、グループの意見を決めていた。また、自分たちの意見に他のグループからどんな質問がきそうか予想して答えも事前に準備していた。その後、全体の話し合いでは自信をもって質問に答えることができていた。

【比べ合う】 出された意見の共通点や相違点を確かめたり、比べ合ったりする

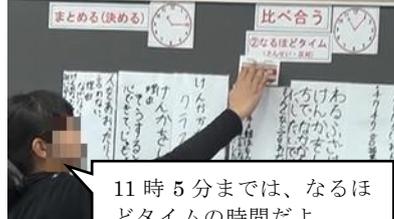
〔質問タイム〕



・質問を通して意見の内容やそこに込められている思いを確認し合う。自分の考えに根拠をもたせることで、発表が苦手だった児童も質問されたことに答えることができた。黒板係が、質問に対する答えを短冊の下に書いて可視化したり、質問された回数を正の字で数えたりしてどの意見に注目が集まっているか分かるようにすることで、それぞれの意見を比べやすくなった。

勇気をだして、質問に答えることができたよ。

〔板書を活用した思考の可視化・操作化・構造化〕



11時5分までは、なるほどタイムの時間だよ。

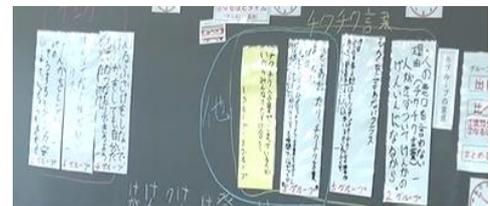
・児童による話し合いの前に、提案理由をキーワードを抜き出して構造的に示すことで、児童が話し合いで大切にしたい内容を焦点化することができた。また、今、話し合いのどの段階にあるかを分かるようにしたり、時間の目安を示したりすることで、見通しをもって話し合いをすすめることができた。

「なるほどタイム」では、8つのグループから出された意見に対して賛成や反対を述べ合うが、賛成・反対の数を色違いの磁石で表すことで話し合いの状況を可視化した。その後、計画委員が短冊を操作しながら意見を比べやすく分類・整理していく。同じ意見どうしを合わせて黄色い短冊に書き直したり、仲間分けしたものを色違いの線で囲み小見出しをつけたりした。

このときは、「チクチク言葉を言わない」と「けんかをしない」に関するものとその他の3つの仲間に分類された。



ここは、「チクチク言葉を言わない」で、仲間分けができそうだ。



【まとめる】

折り合いをつけて合意形成を図り、みんなの総意として意見をまとめる

いよいよ折り合いをつけて合意形成を図っていく。一人の児童から「折り合いの術」で学んだ「合体の術」でまとめたほうがよいとの提案がでた。この児童は、「比べ合う」の段階でも同じような提案をしており、合意形成までの手順が理解できている。この児童の提案を受けて再び計画委員による短冊の操作が始まった。まず、「けんかをしない」に関する3つの意見は1つにまとめられ、「チクチク言葉を言わない」と「けんかをあおったりしない」も1つにまとめられた。これで短冊は残り4つにまで整理された。合意形成までもう一息である。しかし、ここで話し合いが止まってしまった。賛成・反対の数が競合してしまったからだ。そこで、司会グループに話し合いに行き詰まったときは提案理由にもどるように助言をすると、副司会の児童が「提案理由に一番近い意見はどれですか」とみんなに呼びかけた。すると、2名の児童から新しい賛成意見が出され、残りは「チクチク言葉をいったりけんかあおったりしない」と「チクチク言葉で困っている人がいたら、みんなで助け合う」の2つに絞られた。さらに一人の児童が残り2つの意見を合体させるという案を出すと、別の児童も「今日の提案理由に、けんかが多いことやチクチク言葉と言う人がいて発表ができないとあるから、みんなで助け合うと安心できるクラスになれると思います」と合体案を後押しした。最後に、司会グループが「この意見が一番賛成が多いのと、提案理由に一番近いのでこの意見にしてもいいですか」と全員の承認を得て集団決定がなされた。

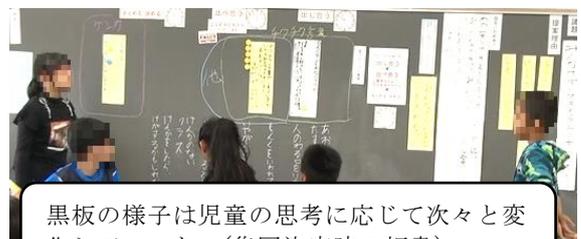
この日の話し合いは、4つのグループの意見をまとめて『チクチク言葉を言わない。困っている人がいたらみんなで助け合う。けんかをあおったりしない』という意見で収束した。選ばれなかった意見についても、質問タイムやなるほどタイムで十分に意見を交流することができたので、全員が納得のいく集団決定ができたと思う。



似たものを合体させたら、意見が整理できると思います



提案理由を根拠に、賛成意見を述べる



黒板の様子は児童の思考に応じて次々と変化していった。(集団決定時の板書)

### 《検証結果1の考察》

- ・ビッグカルタでの「理想の学級」に関するイメージの共有化、学級力レーダーチャートでの現状の分析、議題と関連した道徳科の授業などの事前指導を通して、問題意識を高めて話し合いに臨めた。
- ・計画委員会で学級会のシミュレーションを行うなど事前指導を徹底することで、児童主体で学級会が進行し、集団決定までたどり着くことができた。
- ・短冊や時計、色付き磁石などの思考ツールの活用は児童の思考に合っていた。児童が自分たちで操作して構造化することで意見が比べやすくなり合意形成につながった。
- ・「折り合いの術」を意識して話し合う姿がみられ、複数の意見を集約した集団決定ができた。今回は複数の意見を合わせる「合体の術」を使って合意形成が図れたが、議題に応じて、どの術を使うと全員がより納得のいく合意形成ができるのかを繰り返し指導していく必要がある。
- ・複数の意見を折り合いをつけてまとめる場面で、計画委員の児童だけで短冊の操作をしていた。今後は、フロアに発言を求めながら学級全員で意見を集約できるようにしていく。

### (8) 具体仮説(2)の検証

一連の学習過程の中で、振り返りを重視し、お互いのよさを認め、励まし合う場を繰り返し設定することで、自己有用感や自己肯定感が得られ、学級や学校生活をよりよくしようとする自治的能力や自己指導能力を育てることができるであろう。

本時における具体仮説(2)の検証内容は、次の通りである。

**場** …… 振り返りの場 決まったことの実践の場 アンケート結果

**手立て** …… ①「学級会ノート」や「がんばりカード」を使って、話し合いから実践までを振り返ることができるようにする

②自分と友達のよさに目を向けさせ、互いに認め合う場を数多く設定する

**目指す子どもの変容** …… ①自己有用感や自己肯定感を得る（集団への所属感・連帯感の高まり、自分の成長への気づき、新たな目標の決定など）

②自分たちの学級や学校の生活をよりよくしようとする自治的能力を身に付ける

以上の内容を、決まったことの実践の様子や振り返りの記述やアンケート結果から検証する。

#### 【学級会後の振り返り】

学級会の振り返りでは、自分や友達の何がよかったのかをしっかりと判断して評価し、次の活動に生かすようにする。そうすることで、児童自身の自己評価する力を高めたり、互いのよさやがんばりを認め合ったりすることにつながる。振り返りには、話し合いに関する自己評価とともに集団決定したことに対する自分の役わりについて理解ができていられるかも書かせるようにした。

(発表に苦手意識をもつ児童の振り返り)

今日は、おきやくさんがきてきんちょうしたけど、          さん  
といっしょに発表をしたのでだいじょうぶでした。  
次は、以下きんちょうをせむにがんばりたいです。  
友だちといっしょに発表ができたね、次も発表できるといいですね。



・この児童は、以前、発表する際に心無いことを言われて泣いてしまったことがあり、人前での発表に苦手意識を持っていた。この日は、友達と一緒にグループの意見をみんなの前で発表することができた。後日に行った学級会でも、他のグループから質問されたことにも堂々と答えることができていた。帰りの会でのいいところ見つけでも友達のよさを発表するなど自信がでてきたようだ。

学級会では、どの子にも発言の機会が与えられ、周りも共感的にそれを聞いてあげる。誰でも安心して発言ができる体験を繰り返し積み重ねてあげることで、自己肯定感や学級の支持的風土も高まっていくと考える。

(抽出児童の振り返り)

この発表の時発表したおかげでみんなが発表  
でき、今日決めたことはめあてのようになってきた  
チクチク言葉は使わなくなった。できたことを実行でき、お  
かんぽして、みんなの前で意見を言える。でいえるね。

・この児童は、友達とけんかや口論になることが多かったが、この日の振り返りには友達のよさや決まったことを守ろうとする記述が見られる。学級の課題を自分事として捉え改善しようとしている。自己指導能力が身につけてきた。この日の「いいところ見つけ」では、この児童にお手伝いをしてもらって嬉しかったことを発表する児童がいた。

【一人一人に役割を与え、自己有用感や自己肯定感を育てる】

・どの子も活躍できる学級活動を目指して、全員に役割を与えて学級会に積極的に参加できるようにした。この児童は、初めて司会グループとなり時計係を担当した。話合いの各段階で時間を意識して話し合うことが重要となるが、本児童は目安の時間に合わせてタイマーを設定し、時間が近づくと大きな声でみんなに呼びかけていた。また、同じ司会グループの児童がそっと近づいてタイマーの操作を助言する場面も見られた。

助け合いながら役割を果たそうとする姿がみられた。



・この児童は、他のグループから質問をされると、となりの児童から助言をもらい質問に答えることができた。教師はできる限り見守り、支援も子ども同士で行った。この日の「いいところ見つけ」では、助言をしていた児童が、その児童の学級会でのがんばりやよさをみんなの前で発表していた。他者と協働しながら課題に取り組む、学級活動の特質が見られた場面である。

教師による支援から子ども同士の支援へ



学級会で、〇〇さんが一人で発表することができていたのすごいと思ったよ

【実践の様子から】

学級会で決まったことは児童の見える場所に掲示し、朝の会で唱和して実践への意識付けを行い、毎日どれくらい実践できたのか達成状況を「がんばりカード」に記録させた。「いいところ見つけ」では、友達のよさや努力しているところ、友達にしてもらってうれしかったことなどを発表し合った。一週間実践した後に全体で振り返りを行い成果と課題を整理した。自分の成長に気付くとともに新たな目標を立てて二週目の実践につなげるようにした。



(朝の会での唱和)



(帰りの会でのいいところ見つけ)

☆自分の行動をふり返ろう。(どれくらいできたか色をぬって表そう。)

よくできた…全部ぬる。 ややできた…半分だけぬる。 できなかった…ぬらない。

2/3(月)	2/4(火)	2/5(水)	2/6(木)	2/7(金)
★	★	★	★	★

(毎日どれくらい達成したかを色をぬって表す)

【実践後のがんばりカードの記述から】

チクチク言葉がなくなってきて  
もじぎょう中におしゃべりや悪ふざけ  
がなくなって、来週からは  
チクチク言葉がなくなるとおしゃべり  
がなくなりたいです。

☆がんばったあなたへ

家庭から 今週も頑張れること  
多くなるといいね!!  
一人ひとりが、いしきをもって行動  
するとステキな4年2組に  
パワーアップすると思うよ。ファイト!!

・一週間実践してみてもて成果と課題が書けている。また、さらによい学級にするための次週からの目標を立てることができている。がんばりカードは家庭に持ち帰り、保護者に励ましのコメントを頂いている。この児童は、翌週チクチク言葉を言わないという目標を達成し、新たに「ふわふわ言葉」を増やしていくという目標を立てることができた。自治的能力の高まりが感じられる。

利利物ことばをいっしょに、  
 かにわらわちとからいっしょに  
 わかるところにしるし  
 だてとよれがもしてしあたら  
 だてとよれがもしてしあたら

☆がんばったあなたへ  
 友だちから  
 さんは、ワラワ言葉をつ  
 かさうにしていてい  
 すごいですね。これか  
 せけんかをしないよう  
 きをつけてください。

☆がんばったあなたへ  
 友だちから  
 さん、とんぼ、せいげきれ  
 い、じもをいけつ、しあ  
 わるいよ、わらわち、し  
 いして、わらわち、しあ  
 いて、わらわち、しあ

「がんばりカード」には、保護者や担任からのコメントのほか友達同士でもコメントを書き合うようにした。この児童は、一週間、チクチク言葉を言わないように努力したが、ケンカをしてしまったことを反省している。それに対して隣の席の友達から努力したことへの称賛や励ましのコメントを貰った。その友達に対して、「〇〇さんは、姿勢がきれいで字もきれいだし、いつも注意をしてくれてありがとう。悪いところがあったら教えてください。」とお返しのコメントを書いた。仲間から認められ励まされることで自己有用感や学級への所属感も高まってきた。

【検証授業後の学級会の様子】

・新しい議題を募集したところ、「きれいで安心なクラスにするため、朝のオアシスクリーン活動にみんなで取り組めるようにしたい」と提案が出され学級会で話し合った。今回の司会グループは、初めて計画委員を務める児童が多く、スムーズな進行や合意形成を図ることができるのか心配をしていた。ところが、始まってみるとこれまで司会を経験してきた児童が次々と発言をして司会グループを助けていった。あるグループが「目標をみんなが10回達成できたらその日は宿題をなしにしよう」という意見をだすと、別の児童から「宿題をなくすのは自分たちのためによくはないから」と反対意見出された。すると、「宿題をなくすのではなく、みんなでお楽しみ会をすることにしよう」という改善案がでてきた。さらに、「目標が10回なのは少ないから30回にしよう」「あいだをとって20回にしよう」など、次々と意見が出てきてこれまでに最も活発な話し合いができた。

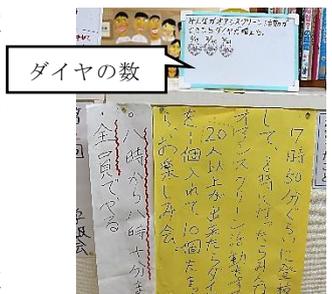
結局、「朝の7時50分までに登校して、8時になったらみんなでクリーン活動をする。20人以上ができればダイヤを1個ためて、全部で10個になったらお楽しみ会をする」という意見に収束した。児童自ら課題を見いだして議題を提案し、話し合い、意見を合わせたり、条件を付けたり、共感して譲ったりするなど折り合いを付けた合意形成ができていた。短期間での児童の成長に驚かされた学級会となった。

翌日からの実践では、開始の時間前から掃除を始める児童もいた。周りの児童もそれにつられて自然に活動を始めていた。活動後の振り返りからは、一週間実践できたことの自信やこの活動を5年生でも続けていきたいなどの意欲の高まりがみられた。また、朝の活動に間に合わなかった児童も翌日早く登校する、掃除をいつもより丁寧にするなど改善策を見つけていた。児童同士の相互評価でも称賛や励ましのほか、具体的な助言をするコメントが多くみられた。自治的能力の高まりを感じる。

〈活動後の振り返り〉

今週は、いつもよりよくできたと思うので、また  
 オアシスや当番ができるようにしたいです。それに、  
 さんやさんは1年の初めからちゃんとや  
 っていて、学級会をやってから、他の人もやるよう  
 になって、前の4年生組よりかは、きれいになれたと  
 ☆がんばったあなたへ 思い、うれしいです。

・この児童は、議題を提案した児童の一年間のがんばりを認めるとともに、学級会で話し合い、決まったことをみんなで実践したことで学級が前よりもよくなったと感じることができたようだ。



活動の成果が見えるようにして意欲を高める

【事後アンケートの結果】

学級会は好き（とくい）ですか

	授業前	授業後
好き（とくい）	37%	52%
嫌い（苦手）	63%	48%

好き（とくい）な理由

- ・以前よりも発表ができるようになった
- ・司会グループを経験して自信が出てきた
- ・学級会をすると、考えをみんなで共有できる
- ・みんなで話し合っていると気持ちがスッキリする

人前で自分の考えを発表することができますか

	授業前	授業後
できる	33%	69%
できない	67%	31%

発表できるようになった理由

- ・自分の意見を伝えられるようになってきた
- ・みんなが「うめらいす」を守って、聴いてくれるようになった
- ・話し合いで自分の意見が採用されるとうれしい
- ・友だちが「大丈夫」と励ましてくれる

〈児童の変容：学級会や発表が苦手だった児童のワークシート・議題提案カード〉

わたしは、おしゃべりや発表をしている人に悪口を言うのがだめだと思いました。理由は、おしゃべりしていたらみんながこまって、話がすすまないから。理由は、発表する人がこわくなって発表できなくなるからです。

オアシスクリーン活動力をみんなでもやりたいです。ほげだけじゃなくて、たな・ぞうきんのせいしんもしたいです。なぜなら、教室がキレイになると安心できるから。

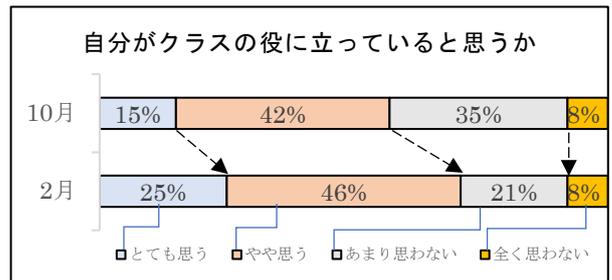
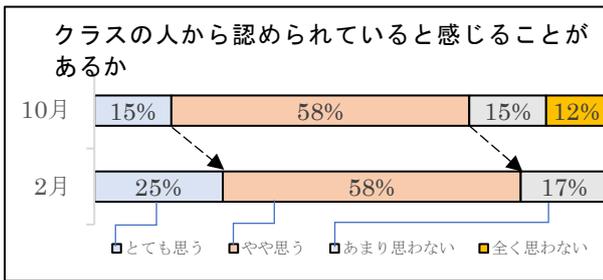
・学級会や人前での発表に苦手意識を持つ児童が多かった。そこで、学級会をもっとよくするために一人一人が気をつけることやがんばることは何か話し合った。この児童は、誰もが安心して発言するために「おしゃべりをしない、発表している人に悪口を言わない」という具体的な方法を根拠を明確にしながら考えることができた。一人一人の思いや願いはグループや全体で共有して学級会の改善を図った。その後、この児童は議題に沿った解決方法を考えたり、学級をよくするための新たな議題を提案したりするなど、主体的に課題に取り組もうとする姿が見られた。この児童が提案した「オアシスクリーン活動パワーアップ大作戦」は学級会の議題として取り上げられ、現在も実践している。

みんなの意見をまとめるとき、折り合いの術は役に立つと思いますか

役に立つ	まあまあ役に立つ	役に立たない
72%	28%	0%

折り合いの術を使ってみんなの意見をまとめることができますか

よくできる	まあまあできる	できない
21%	62%	17%



《検証結果2の考察》

- ・話し合いや決まったことの実践の場で、互いに助言し合ったり支援し合ったりする様子が見られた。また、がんばりカードやいいところ見つけなどでお互いのよさを認め合うことができた。アンケートの結果を見ても、以前と比べて自己有用感や自己肯定感の高まりが感じられる。
- ・話し合いから実践までの一連の活動を振り返り、自分や友達のよさに気付き、自信をもつことができるようになるとともに、新たな課題を見つけて提案したり、実践の場で互いに声をかけあって活動に取り組んだりするなど、自治的能力が身についてきた。
- ・学級生活をよりよくするためにみんなで話し合うことの意義や話し合いの決まりを理解し、人前でも安心して発表できる児童が増えてきた。

## Ⅶ 研究の成果と課題・今後の取り組み

### 1 成果

- (1) 学級活動の一連の学習過程を繰り返し指導することで、学級の課題を自ら見いだして議題の提案や題材に繋がる発言をしたり、合意形成したことや意思決定したことを粘り強く実行したりするなど、主体的に課題に取り組む自主的・実践的な態度が育ってきた。
- (2) 話し合う場において、計画委員会の事前指導を徹底したり、思考を可視化して板書を工夫したり、「折り合いの術」を使ったりすることで、児童主体でよりよい合意形成や意思決定を図ることができるようになってきた。
- (3) 話し合いや決まったことの実践の場において、友だちと助言や支援をし合ったりよさを認め合ったりするなど、学級の支持的風土が高まった。
- (4) 活動を振り返る場面や「いいところ見つけ」での発言や記述、学級会における議題の提案などから自治的能力や自己指導能力の高まりがみられた。

### 2 課題と対応策

- (1) 課題の解決方法を自分で考えることができない児童や集団決定や意思決定したことを粘り強くやり遂げることができない児童もいる。一人一人の問題意識を高め、課題を自分の事として捉えさせるための指導や意欲を継続させる工夫が必要である。
- (2) 「折り合いの術」は合意形成に向けて有効であるが、どのように使えばよいのか分からない児童もいる。また、計画委員の力量に差があり話し合いをうまく進行したりまとめたりできないこともある。今後も、繰り返し丁寧に指導して話し合いの技能を高めていく。

### 3 今後の取り組み

- (1) 本研究では、学級経営の充実に資する学級活動の基本的な学習過程について研究し実践してきた。これまでの成果をもとに、今後は、児童会活動、クラブ活動、学校行事においても研究を進め、学級での取り組みを学年や学校全体へと広げていく。年間指導計画に基づく意図的・計画的な指導を年間を通して行い、学級や学校における望ましい人間関係形成と集団の育成を目指す。また、成果と課題は学校全体で共有し、全職員で協働して特別活動の指導・改善に努めていく。
- (2) 特別活動は、キャリア教育の要としての役割が求められる。今後は、学級活動(3)「一人一人のキャリア形成及び自己実現」に関する指導や次年度から始まるキャリアパスポートの活用についての研究を進める。小・中・高の繋がりを意識しながら、児童が、現在及び将来にわたってよりよく生きるために、自分に合った目標や具体的な方法を意思決定し、なりたい自分を目指すことができるような自己実現を図る力を育てていく。

---

## 参考文献

文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター

- |         |          |                                     |
|---------|----------|-------------------------------------|
|         | 2019年1月  | 「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)」文溪堂 |
| 文部科学省   | 2017年7月  | 「小学校学習指導要領解説(特別活動)」日本文教出版株式会社       |
| 杉田洋・編著  | 2017年12月 | 「小学校新学習指導要領ポイント総整理 特別活動」東洋館出版社      |
| 杉田洋     | 2013年3月  | 「自分を鍛え、集団を作る！特別活動の教育技術」小学館          |
| 田中博之・編著 | 2013年4月  | 「こんなクラスにしたい！を子どもが実現する方法」金子書房        |
| 宮川八岐    | 2012年7月  | 「やき先生の特別活動講座 学級会で子どもを育てる」文溪堂        |
| 杉田洋     | 2009年12月 | 「よりよい人間関係を築く特別活動」図書文化社              |
| 坂本昇一    | 1990年9月  | 「生徒指導の機能と方法」文教書院                    |